## ● 読書感想文コンクール 小学校 1・2・3 学年の部 ●

## 入選

## 守重 琉清(もりしげりゅうせい) 松枝小 3年生

作品名:おにいちゃんがいてよかった<br/>図 書:お兄ちゃんがいてよかった。

ぼくはおにいちゃんがいてよかったという本を読みました。

なぜこの本をえらんだかというとお兄ちゃんと妹の話でぼくにも妹がいるので気もちがわかると思ったからです。きっと楽しいお話だろうと思いました。

でも、とてもかなしいお話でした。妹がお兄ちゃんと公園に行ったこと、お兄ちゃんと二人でおるす番したこと、お兄ちゃんのすきなケーキのことが思い出話のように書かれていました。そして、「お兄ちゃんは、もういない。」という言葉が出てきます。お兄ちゃんはびょうきで死んでしまったのです。読んでいて、かなしくなりました。妹がかわいそうでした。

ぼくにも妹がいます。もしぼくがびょう気になったりしたらぼくの妹もすごくかなしむと思います。いつもはけんかをしたり、仲よくないときもあるけど、かわいい妹です。妹をかなしませないためにもけがやびょう気には気をつけようと思いました。

毎日当たり前にやっていることもびょう気や死んでしまったりしたらできなくなってしまいます。元気にあそべること、べんきょうできること、ごはんを食べれること、そんな当たり前のこともかんしゃをしなければいけないと思いました。

おにいちゃんがいてよかったという本はとてもかなしい本です。でも、べんきょうになる本でした。